

【報告】碧南市に設置された 野外彫刻の管理・メンテナンス・修復のあゆみ

安藤 里恵

はじめに

日本では1960年代頃から、まちなかに都市環境の景観形成を意識した、美術作品としての彫刻を設置することが盛んになった。宇部市や神戸市がその先駆けとして、野外彫刻の公募展をスタートさせたことは¹、特記すべき事例であろう。続く1970年代は彫刻と設置場所の調和、彫刻自体の美的強度を探求し始めた時代といえ、彫刻を設置することで、公的空間に文化的な要素を加え、市民に芸術を普及するとともに地域の特色化が図られるようになった。展示室から屋外へ移動した彫刻は、都市景観の向上および地域の文化振興に資した。

碧南市では、1983(昭和58)年に碧南市民憲章推進協議会から、「町づくりに野外彫刻を」と提言され、「彫刻のあるまちづくり」事業²が始まった。野外彫刻の設置方法は、市民団体と市の代表者から成る野外彫刻設置推進部会と、美術評論家及び市民団体・市の代表者から成る彫刻設置選考委員会という2つの団体によって決定された。彫刻を設置する場所を野外彫刻設置推進部会が検討し、その後、彫刻設置選考委員会によって、その場所に適した作家が選定された。作家が現地を確認し、その空間に呼応する作品を制作するというオーダーメイド方式を採用したことが、碧南市の特徴である。一年に一体ずつの設置が進められ、当事業により計13体の彫刻が市内各所に設置された。この事業に関連し、碧南市の土地区画整理事業といった各種記念事業において市内の諸団体と協力しながら、5体の彫刻の設置が進められた。そのほか1989(平成元)年には国際野外彫刻シンポジウムも開催され、6体加わった。1996(平成8)年3月までに計24体もの彫刻が碧南市のまちなかを彩ることとなった。以降、彫刻設置事業は休止というかたちをとって現在に至る。

野外彫刻は、屋外に設置している以上、人や車の衝突、故意の悪戯などによる破損・変形、生物活動による変色変化、大気汚染等による素材の変化など様々な現象から逃れられない。突発的な事故から引き起こされる損傷については、その都度修復措置が行われている。経年による変化といったものは、定期的に専門家に調査を依頼し、現状を把握するよう努めており、その結果を受けて順次各彫刻の修復計画を立てている。

第1作の設置から現在まで、37年の月日が経過している。すべての彫刻が同様のルーティンで修復措置が必要になることはなく、彫刻を構成する素材、設置された環境によって状態が異なることがあらためてあらわになってくる。今回の報告では碧南市に設置された各彫刻を紹介し、設置後に実施されているメンテナンスおよび修復のあゆみを記載する。また都市の景観変化に起因する彫

刻の移設といった、野外彫刻設置後の管理のありようについてまとめ、報告する次第である。

注記

メンテナンス履歴・内容については碧南市に保管された文書を、各彫刻の情報は『碧南の空と大地の間』碧南市藤井達吉現代美術館展覧会図録、2008年)および『碧南の彫刻のあるまちづくり』碧南市・碧南市民憲章推進協議会、1996年を基本典拠とした。

「彫刻のあるまちづくり」設置作品 13点

1

第1作
碧南ロータリークラブ創立25周年記念協賛
設置年：1983(昭和58)年度
作家名：堀内正和
作品名：進む形
寸法(cm)：212.0×269.0×100.0
素材：ステンレススチール
設置場所：碧南市臨海体育館前(碧南市浜町)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 定期清掃³
日 時：2回／月
内 容：ステンレス鏡面部分を乾拭き後水洗いし、水分を取り除いた後に洗剤等で磨き上げる。
- 2 日 時：2009(平成21)年
状態調査：面と面の接合部が離れた隙間が10カ所、各30～1000mmあり。温度差による金属膨張に起因すると推察される。彫刻設置台座部分には錆あり⁴。
内 容：修復の検討を始める。



修復作業



接続不良部分

- 3 日 時：2012(平成24)年12－2月
状態調査：2のとおり
内 容：洗浄、破断箇所を接続し構造を回復。表面の研磨作業を実施した。
- 4 日 時：2020(令和2)年
状態調査：良好
内 容：経過観察

2

第2作
設置年：1984(昭和59)年度
作家名：佐藤忠良
作品名：ジーンズ・夏
寸法(cm)：178.0×70.0×60.0
素材：ブロンズ
設置場所：碧南市文化会館前(碧南市源氏神明町)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 定期清掃³
日 時：2回／月
内 容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座も同様とする。
- 2 日 時：1995(平成7)年6月
状態調査：表層着色が斑化している。
内 容：表面の補修工事を実施した。
- 3 日 時：1997(平成9)年7月
状態調査：足の付け根に変色が生じていた(5カ所)。
内 容：塗裝修繕を実施した。
- 4 日 時：2004(平成16)年3月
状態調査：全体に腐食・汚損がみられた。



修復作業



糞害例

- 内 容：塗裝修繕を実施した。
- 5 日 時：2009(平成21)年
状態調査：以前実施された塗裝修繕における塗料が斑(青色と褐色)に変色している。塗料により地金と大気の遮断は成功しているものの、美観的には見苦しく、塗り重ねられた塗料によって造形の細やかなテクスチャーが失われている。鑄造時の鬆に錆有。虫の営巣が2カ所ある。地山と台座のシリコンの目止めによって水抜きができない状態。彫刻設置環境は駐車場内の設置のため、常に排気ガスにさらされている⁴。
内 容：修復の検討を始める。
- 6 日 時：2011(平成23)年12月
状態調査：5のとおり
内 容：目止めのシリコン及び以前の修復による塗料を全て除去した。洗浄、着色補正を行ったのち、蜜蠟によるコーティングを実施した。山部7分艶、谷部3分艶として磨き上げ、彫刻の立体感を強調した。
- 7 日 時：2014(平成26)年2月
状態調査：コーティングムラ、糞害あり。
内 容：洗浄、加熱着色補正、コーティングを実施した。
- 8 日 時：2020(令和2)年9月
状態調査：コーティングムラ、変色あり。
内 容：洗浄、コーティングを実施した。



3

第3作
設置年：1985(昭和60)年度
作家名：小田 襄
作品名：風景の調和
寸法(cm)：200.3×311.0×86.0
素材：ステンレススチール・瓦
設置場所：碧南中央駅前

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1

定期清掃³

日時：2回／月

内容：ステンレス鏡面部分を乾拭き後水洗いし、水分を取り除いた後に洗剤等で磨き上げる。芝生については、草取りをする。
- 2

日時：2009(平成21)年

状態調査：瓦とステンレススチールで構成された彫刻。最下列の瓦の不接続および欠損あり。彫刻周囲の手入れも行き届いており設置環境は良好⁴。

内容：経過観察
- 3

日時：2020(令和2)年

状態調査：下部の瓦の欠損(3カ所)あり。

内容：経過観察



部分(瓦)の欠損例



4

第4作
設置年：1986(昭和61)年度
作家名：新妻実
作品名：《眼の城'86》
寸法(cm)：600.0×210.0×210.0
素材：赤褐色ロプラート御影石(ポルトガル産)40t
設置場所：碧南市役所前(碧南市松本町)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1

定期清掃³

日時：2回／月

内容：芝生の草取りをする。
- 2

日時：2009(平成21)年

状態調査：中段の石塊に貫通したひび割れ有。上・下段ともに細かな亀裂が無数に走る。大きな亀裂に接着剤を含侵させ補強が施された跡がみられる⁴。

内容：経過観察
- 3

日時：2018(平成30)年8月

状態調査：3段に重ねられた石塊のうち、中央の石塊中心に位置する円筒形の空洞から、大きな亀裂が広がる。多くの小規模な亀裂が凍上現象などで広がり、破壊が進行したと推察する。亀裂の措置として外側からボルト締めがなされているものの、緩み錆びて機能していない。耐震・構造調査の結果、倒壊の危険性が高いと判断する。

内容：彫刻の部分撤去について検討を始める。
- 4

日時：2018(平成30)年11月

状態調査：3のとおり。



亀裂のようす



作業前



作業後



現在

内 容：彫刻の解体作業を行う。各塊は15t以上と想定され、倒壊を防ぐため上から1、2段目の石塊を下した。3段に重ねられた石塊のうち、中央2段目の石塊の老朽化が激しく、崩壊の危険性があった。上部2体は梱包し別置とした。1段目は残置されている。

移 設：作家は1998(平成10)年に逝去。ご遺族とは連絡が取れなかったが、急を要したため、作業記録を残しながら撤去を進めた。作業後、移設経緯を記したパネルを彫刻付近に設置している。

5 日 時：2020(令和2)年

状態調査：石塊1段目と基礎部分は良好

内 容：経過観察

5

第5作

設置年：1987(昭和62)年度

作家名：山本正道

作品名：樹と少女

寸法(cm)：130.0×545.0×272.0

素材：ブロンズ

設置場所：碧南市民立新川公民館前(碧南市新川町)

■メンテナンスおよび修復履歴

1 定期清掃³

日 時：2回／月

内 容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座(瓦タイル)部分は、ゴミ、砂等を取り除く。台座周囲の植栽内の草取りをする。

2 日 時：2009(平成21)年

状態調査：少女像はオリジナルの色と緑青の色が混在し



斑模様になっている。接続に緩みがみられる。

樹像は変色変容が破綻なく進行し、美しい経年変化をみせている⁴。

内 容：経過観察

3 日 時：2020(令和2)年

状態調査：少女像の接続に緩みがみられる。

内 容：経過観察

6

第6作

設置年：1988(昭和63)年度

作家名：環境造形Q

作品名：スパイラル

寸法(m)：3.8×24.0×22.0

素材：花崗岩(能勢産)

設置場所：碧南市民病院前ロータリー(碧南市平和町)

■メンテナンスおよび修復履歴

1 定期清掃³

日 時：2回／月

内 容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座周囲の草取りをする。

2 日 時：1989(平成元)年

状態調査：ロータリーのため、車が乗りあげる事故が起こった。

内 容：車両が誤って侵入できないよう、侵入防止策として設置場所の縁の瓦を高くする修繕を行った。

3 日 時：2009(平成21)年

状態調査：彫刻と基礎との接続は良好。13



体のうち3体に10cm程度の亀裂が走っている。設置場所の土台にゆらぎあり。設置環境は良い⁴。

内 容：経過観察

4 日 時：2020(令和2)年

状態調査：設置場所の土台、瓦の凹凸崩れが一部にみられる。彫刻の状態は良好。

内 容：経過観察

7

第7作
設置年：1989(平成元)年度
作家名：加藤昭男
作品名：とのさまバッタ
寸法(cm)：子供像114.0×230.0×235.0
バッタ(芝)80.0×79.0×110.0
バッタ(飛)140.0×185.0×168.0
素材：ブロンズ
設置場所：碧南市立棚尾小学校前正門前広場(碧南市春日町)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 定期清掃³
- 日 時：2回／月
- 内 容：乾拭きし、芝生については、草取りをする。
- 2 日 時：1996(平成8)年8月
- 状態調査：基礎部分に緩みあり
- 内 容：緩みの改善措置



修復作業



- 3 日 時：2009(平成21)年
- 状態調査：バッタ羽裏面から台座にかけて縞状の垂れ痕が残し、変色が進行している。バッタの背中、前足の下側に錆の発生有り。足元には虫の営巣あり。子ども像にも顔面下部から胸にかけて縞状の垂れ痕がみられ、変色している。地面近くの部分では、草取り・自動芝刈り機などによる傷が発生している⁴。
- 内 容：修復の検討を始める。

- 4 日 時：2011(平成23)年11月
- 状態調査：2のとおり
- 内 容：彫刻周辺部の草取り、洗浄、着色補正、保護剤を塗布した。

- 5 日 時：2020(令和2)年
- 状態調査：バッタ、子ども像ともに雨垂れ痕が散見される。
- 内 容：経過観察

8

第8作
設置年：1990(平成2)年度
作家名：多田美波
作品名：晃
寸法(cm)：279.0×266.0×192.0
素材：ステンレス
設置場所：碧南市油ヶ渚遊園地(碧南市油渚町)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 定期清掃³
- 日 時：2回／月
- 内 容：乾拭きを実施する。



設置当初（木彫）

- 2

定期清掃

日時：1回／年

内容：設置場所の池の水を抜き、池の清掃を行っている。
- 3

日時：2009（平成21）年

状態調査：良好⁴

内容：経過観察
- 4

日時：2020（令和2）年

状態調査：良好

内容：経過観察

9

第9作
設置年：1991（平成3）年度
作家名：鈴木実
作品名：HEKINAN 或る家族の肖像
寸法（cm）：男 184.5 × 96.0 × 130.0
女 188.5 × 96.5 × 125.0
孫娘 262.0 × 76.0 × 61.0
素材：木彫（1991（平成3）年－2002（平成14）年
ブロンズ（2003（平成15）年－）
設置場所：碧南市日進ポケット広場（碧南市東浦町）

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1

定期清掃³

日時：2回／月

内容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。
芝生及び植栽内については、草取りをする。
- 2

日時：2003（平成15）年

状態調査：木材の腐食が著しい



現在（ブロンズ化）



糞害例

- 内容：オリジナルの木彫を別置保管とし、新しくブロンズにて鑄造した作品を設置する。

ブロンズ⁵：日本を代表する木彫作家である鈴木実に依頼した当作品は、作家選考委員や作家自身の希望より木彫を設置することが決定された。しかし、屋外設置をする以上、経年による腐食は避けられないと予想され、将来のブロンズ化を想定。市は作家より石膏型を受領し保管する。設置から10年が経過し、2001（平成13）年頃から風雨等による木の腐食が少しずつ目立つようになる。市では、その対応策を鈴木と協議したうえで都度、防腐や防水材の塗布などの処置を施してきた。表面上は一時的に改善されたかのように見えるものの、内部では腐食が進行していた。改めて翌年2002（平成14）年に作家と再協議し、ブロンズ化の決定がなされたが、その年の7月、鈴木実が逝去。2003（平成15）年に鈴木の子孫族監修のもと、ブロンズ化事業が実施された。鑄造については、作家が生前に鑄造相談および制作指定をしていた山形の専門業者が行っている。

- 3

日時：2009（平成21）年

状態調査：一部金属表面の変容が起こり始めている。現段階から洗浄や保護剤塗布といったメンテナンスを実施することが長期保存のために望ましい⁴。

内容：経過観察
- 4

日時：2020（令和2）年

状態調査：良好

内容：経過観察



設置当初（城山ポケット広場）



移設後（東中学校内）



移設作業

10

第10作
設置年：1992（平成4）年度
作家名：澄川喜一
作品名：TO THE SKY
寸法（cm）：480.0 × 100.0 × 100.0
素材：黒御影石
設置場所：碧南市城山ポケット広場（碧南市城山町）（1992（平成4）年－2003（平成15）年）
碧南市立東中学校内（碧南市天神町）（2003（平成15）年－）
移設経緯⁶：設置当初は道路の形態より三方向から彫刻が見渡せることから、当場所が決定されたものの、設置から10年が経過し、城山ポケット広場周辺は、周辺の家屋・店舗の建設、電線・電柱が設置され、修景が大きく変わっていた。さらに南から北進した場合については、照明灯が彫刻を隠してしまい鑑賞の妨げとなるなど、設置場所として適地と言えない状況が生じていた。作家の澄川が現地を実見、翌年の2003（平成15）年2月に「彫刻移設工事に係る検討会」を設置、移設について検討を始める。移設場所の検討は碧南市文化振興プランに沿い、当初の設置場所の学区である東中学校内に決定された⁷。

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 日 時：2009（平成21）年
状態調査：設置環境もよく良好⁴。
内 容：経過観察
- 2 日 時：2020（令和2）年
状態調査：良好
内 容：経過観察



11

第11作
設置年：1993（平成5）年度
作家名：向井良吉
作品名：碧南
寸法（cm）：375.0 × 125.0 × 120.0 cm
素材：ブロンズ
設置場所：へきなん芸術文化村（碧南市鶴見町）

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 日 時：2009（平成21）年
状態調査：作品鏡面部分の汚れは少ない。マットな表現の部分は経年による変化が鏡面部分と美しく調和している。台座との接合も堅固である⁴。
内 容：経過観察
- 2 日 時：2020（令和2）年
状態調査：良好
内 容：経過観察

12

第12作
設置年：1994（平成6）年
作家名：下川昭宣
作品名：夏引
寸法（cm）：170.0 × 270.0 × 120.0 cm
素材：黒御影石
設置場所：川口公園（碧南市川口町）



- メンテナンスおよび修復履歴
- 1 定期清掃³
日 時：2回／月
内 容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座も同様とする。
- 2 日 時：2000(平成12)年
状態調査：ペンキやマジック等による落書き
内 容：落書きの除去を実施
- 3 日 時：2009(平成21)年
状態調査：良好。公園内の設置であるが、樹木からも距離があり影響はない⁴。
内 容：経過観察
- 4 日 時：2020(令和2)年
状態調査：良好
内 容：経過観察

13



第13作
設置年：1995(平成7)年
作家名：黒川晃彦
作品名： Rond
寸法(cm)：175.0×400.0×400.0
素材：ブロンズ
設置場所：千福ポケット広場(碧南市千福町)

- 修復・メンテナンス履歴
- 1 定期清掃³
日 時：2回／月
内 容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座も同様とする。台座周囲の草取りをする。



楽器内にごみが詰まり水抜きができていない



擦傷例

- 2 日 時：2003(平成15)年
状態調査：釘による落書擦傷
内 容：擦傷塗装修繕を実施した。
- 3 日 時：2004(平成16)年3月
状態調査：車両衝突による事故により擦傷、汚損あり。
内 容：擦傷塗装修繕を実施した。
- 4 日 時：2007(平成19)年10月
状態調査：車両による縁石の倒壊事故
内 容：縁石修理を実施した。
- 5 日 時：2009(平成21)年
状態調査：3体とも擦り傷が多くみられ、表面の塗料が剥がれ下地がのぞいている。楽器内部にはごみが捨てられている⁴。
内 容：経過観察
- 6 日 時：2020(令和2)年
状態調査：4のとおり。
内 容：洗浄、擦傷緩和処置、着色補正、コーティングを実施した。

※《 Rond》において、当作品が碧南市の「彫刻のあるまちづくり」事業での最後の設置作品となった⁸。

続いては、「彫刻のあるまちづくり」事業に関連した、各団体が主体となって設置した野外彫刻を列記する。

市民・市民団体等による野外彫刻の寄贈・設置作品 5点



設置当初



移設作業



移設前

14

碧南市健康を守る会20周年記念
設置年：1987(昭和62)年度
作家名：柳原義達
作品名：道標・鳩
寸法(cm)：52.0×49.0×28.0(1972(昭和47)年制作)
33.0×46.0×23.0(1986(昭和61)年制作)
40.5×39.0×19.0(1978(昭和53)年制作)
素材：ブロンズ
設置場所：碧南市保健センター前庭(碧南市天王町)
(1987(昭和62)年－2011(平成23)年)
碧南市藤井達吉現代美術館(碧南市音羽町)
(2011(平成23)年－)

- メンテナンスおよび修復履歴
- 1 定期清掃³
日時：2回／月(美術館へ移設後は毎日)
内容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座も同様とする。芝生については、草取りをする。
- 2 日時：2009(平成21)年
状態調査：像は変色しオリジナルの色は失われている。緑青の縞模様が全体を覆う。鑄造時の鬆(す)に錆や鉄分の結晶が発生し、汚損されている。3体のうち2体には台座との接続にぐらつきがみられる⁴。
内容：今回の調査を契機とし、修復・移設の検討がなされる。



移設後

- 3 日時：2011(平成23)年12－1月
状態調査：2のとおり。
内容：アンカーバーの交換(ブロンズ)、底内部の錆の除去、洗浄、復元着色、蜜蝋コーティングしたのち移設。彫刻と台座を固定するねじは真鍮製で再作成した。
移設経緯：彫刻設置選考委員会委員であった酒井忠康氏に相談。移設場所の検討を行った。移設後は当初の設置場所であった保健センター前庭に経緯を記したパネルを設置した。

- 4 日時：2020年
状態調査：良好。オリジナルのキャプションの摩耗が激しい。
内容：経過観察

15

碧南市制40周年記念
設置年：1988(昭和63)年度
作家名：福田繁雄
作品名：ヘルシーゲート
寸法(cm)：580.0×300.0×165.0
素材：ステンレススチール
設置場所：碧南市臨海公園野球場前(碧南市浜町)



- メンテナンスおよび修復履歴
- 1 日時：2009(平成21)年
状態調査：作品下部に引っ掻き傷有り。鳥の糞害もみられる。全体としては良好⁴。
内容：経過観察
- 2 日時：2020(令和2)年
状態調査：良好
内容：経過観察



16

碧南下山土地区画整理事業完成記念
設置年：1989(平成元)年度
作家名：国島征二
作品名：碧と風の輪
寸法(cm)：200.0×400.0×790.0
素材：白御影石(愛知産)
黒御影石(アフリカ産)
設置場所：碧南市下山公園内(碧南市入船町)

- メンテナンスおよび修復履歴
- 1 定期清掃³
日 時：2回／月
内 容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座も同様とする。芝生については、草取りをする。
- 2 日 時：2000(平成12)年
状態調査：ペンキやマジック等による落書き
内 容：落書きの除去を実施
- 3 日 時：2009(平成21)年
状態調査：良好⁴
内 容：経過観察
- 4 日 時：2020(令和2)年
状態調査：良好
内 容：経過観察

17

衣浦東部浄化センター竣工記念
設置年：1995(平成7年)年度
作家名：松本光司



作品名：風の車
寸法(cm)：220.0×410.0×100.0
素材：アルミ、ステンレススチール
設置場所：衣浦東部浄化センター内(碧南市港南町)

- メンテナンスおよび修復履歴
- 1 日 時：2009(平成21)年
状態調査：接合部に使用されているパテは一部変色しているものの、それほど劣化はみられない。可動部分も機能しており全体としては良好な状態である⁴。
内 容：経過観察
- 2 日 時：2020(令和2)年
状態調査：良好
内 容：経過観察

18

碧南雨池土地区画整理事業完工記念碑
設置年：1995(平成7)年
作家名：加藤知彦
作品名：わらべの詩
寸法(cm)：55.0×356.0×230.0
素材：ブロンズ
設置場所：雨池公園(碧南市雨池町)

- メンテナンスおよび修復履歴
- 1 定期清掃³
日 時：2回／月
内 容：乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。台座も同様とする。

※全作品について、周囲のゴミ、草等を取り除く。

- 2日時：2009(平成21)年
状態調査：少年像、少女像、鳥像ともに接続に緩みが見られる。緑の着色が落ち、黒い斑模様が出現している⁴。
内容：経過観察
- 3日時：2020(令和2)年
状態調査：公園内部に設置されており、植栽の成長に伴い樹液の影響による変色が見られる。彫刻の接続不安、ぐらつきがある。
内容：2021(令和3)年に修復と彫刻上部に伸びた植栽の剪定を予定している。

国際野外彫刻シンポジウム作品 6点

1989(平成元)年度7～8月にかけて、文化振興と国際親善を図るため日本に在住する留学生等による野外彫刻シンポジウムを開催した。



19－1

国際野外彫刻シンポジウム碧南
設置年：1989(平成元)年度
作家名：カレン・ストッカー
作品名：渚・小さい波
寸法(cm)：女の子 59.0×53.0×63.0
男の子 90.0×36.0×26.0
素材：ブロンズ
設置場所：碧南緑地公園(碧南市港本町)(1989(平成元)年－2010(平成22)年)
碧南海浜水族館・青少年海の科学館前(碧南市浜町)(2010(平成22)年－)



移設後



キャプションの摩耗

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1日時：1996(平成8)年
状態調査：基礎部分に緩みあり
内容：緩みの改善措置。
- 2日時：2009(平成21)年
状態調査：2体とも頭頂部から胸部、台座にかけて緑青の縞模様が顕著⁴。
内容：修復の検討を始める。
- 3日時：2010(平成22)年
状態調査：1のとおり
内容：移設後、洗浄(像／台座)、着色補正作業、コーティングを実施した。
移設：衣浦港碧南緑地公園から2010年度に碧南海浜水族館・青少年海の科学館前へ移設した⁹。
- 4日時：2020(令和2)年
状態調査：良好。キャプションの摩耗が激しい。
内容：経過観察

19－2

国際野外彫刻シンポジウム碧南
設置年：1989(平成元)年度
作家名：張琪
作品名：風景
寸法(cm)：58.0×34.0×221.0
素材：大理石・黒御影石
設置場所：碧南緑地公園(碧南市港本町)(1989(平成元)年－2010(平成22)年)
碧南海浜水族館・青少年海の科学館前(碧南市浜町)(2010(平成22)年－)

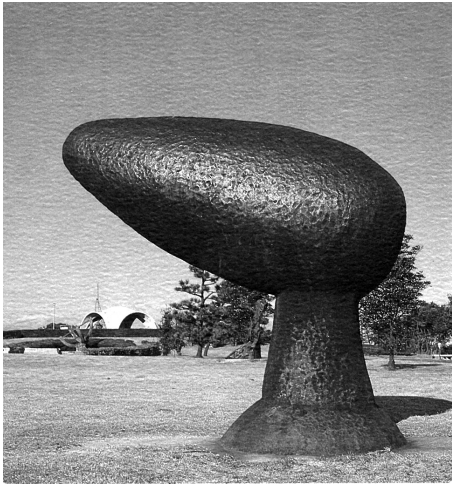




移設後



汚損例



■メンテナンスおよび修復履歴

- 1

日時：2009(平成21)年

状態調査：白大理石の最上部に欠損・汚損あり。白大理石と黒御影石の結合部に錆の流出あり。風化や劣化の進行がみられる⁴。

内容：修復の検討を始める。
- 2

日時：2011(平成23)年3月

状態調査：1のとおり。臨海公園から移設する作業の際に、上部の突起が落下する事故が発生した。

内容：移設後、洗浄、部分接続、コーティングを実施。

移設：衣浦港碧南緑地公園から2010年度に碧南海浜水族館・青少年海の科学館前へ移設した⁹。
- 3

日時：2020(令和2)年

状態調査：樹木の影響による汚損、苔類の繁茂がみられる。

内容：経過観察。周囲の植栽の剪定を検討する。

19－3

国際野外彫刻シンポジウム碧南
設置年：1989(平成元)年度
作家名：チャールズ・ウォーゼン
作品名：鉄・鉄
寸法(cm)：120.0×125.0×80.0
素材：鋳鉄
設置場所：碧南緑地公園(碧南市港本町)(1989(平成元)年－2010(平成22)年)
碧南海浜水族館・青少年海の科学館前(碧南市浜町)(2010(平成22)年－)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1

日時：2009(平成21)年



移設後



汚損例



- 状態調査：鉄錆が全体を覆い、雨垂れ、斑状に錆垂れあり。鳥糞の付着汚損⁴。

内容：修復の検討を始める。

- 2

日時：2011(平成23)年3月

状態調査：1のとおり

内容：移設後、洗浄、接続、コーティングを実施した。

移設：衣浦港碧南緑地公園から2010年度に碧南海浜水族館・青少年海の科学館前へ移設した⁹。

- 3

日時：2020(令和2)年

状態調査：縞模様が表面に現れている。

内容：経過観察

19－4

国際野外彫刻シンポジウム碧南
設置年：1989(平成元)年度
作家名：エリザベス・マクダウエル
作品名：SEA(海)
寸法(cm)：202.0×140.0×85.0
素材：銅板(ブロンズ溶接)
設置場所：碧南緑地公園(碧南市港本町)(1989(平成元)年－2010(平成22)年)
碧南海浜水族館・青少年海の科学館前(碧南市浜町)(2010(平成22)年－)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1

日時：2006(平成18)年1月

状態調査：悪戯等による外観の損傷。右手飾り、胴体の溶接剥離あり。

内容：ブロンズ溶接修繕
- 2

日時：2009(平成21)年

状態調査：台座に固定している足元のボルトに緩みあり。



変形例



移設後

構造的な強度に欠けると判断される。足の裏の銅板は2mm弱で破断寸前である⁴。

内 容：修復の検討を始める。

- 3 日 時：2011(平成23)年3月
- 状態調査：2のとおり
- 内 容：破断箇所を溶接(鳥10カ所、腕部分2カ所、足部分5カ所、衣部分9カ所)し、足からふくらはぎにかけて芯棒を加え構造を強化した。洗浄、着色補正、コーティングを実施した。
- 移 設：衣浦港碧南緑地公園から2010年度に碧南海浜水族館・青少年海の科学館前へ移設した⁹。キャプション新設。

- 4 日 時：2020(令和2)年
- 状態調査：良好
- 内 容：経過観察

19－5

国際野外彫刻シンポジウム碧南

設置年：1989(平成元)年度

作家名：石川博章

作品名：Play Sculpture for Children of HEKINAN(知・徳・体)

寸法(cm)：202.0×140.0×85.0

素材：白御影石

設置場所：碧南緑地公園(碧南市港本町)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 日 時：2009(平成21)年
- 状態調査：良好⁴
- 内 容：経過観察



- 2 日 時：2020(令和2)年
- 状態調査：良好
- 内 容：経過観察

19－6

国際野外彫刻シンポジウム碧南

設置年：1989(平成元)年度

作家名：村上有彦

作品名：大地のものたち

寸法(cm)：202.0×140.0×85.0

素材：木・鉄

設置場所：碧南緑地公園(碧南市港本町)(1989(平成元)年－2010(平成22)年)

(2010(平成22)年に劣化損壊のため撤去)

■メンテナンスおよび修復履歴

- 1 日 時：2009(平成21)年
- 状態調査：木部に腐食・欠落あり。鉄部の酸化が進んでおり腐食・破損している。凸部は木の肌が露出し、破損している。修復の検討は困難と考える⁴。
- 内 容：移設・撤去を検討する

- 2 日 時：2010(平成22)年度
- 状態調査：1のとおり
- 内 容：劣化損壊のため撤去
- 撤去経緯：設置していた公園が、碧南市の整備事業計画の対象とされたため、彫刻の移設、修復、解体などの手段が検討された。当作品については作品状態を鑑み、解体撤去する運びとなった¹⁰。

以上、碧南市の野外彫刻計24点の紹介およびメンテナンス・修復履歴、移設経緯を記した。

まとめ

野外彫刻設置後に彫刻を管理する課となった美術館としては、彫刻設置当初の取り決めとして、所有権が当市にあること、将来的な変化についてある程度想定して準備がなされていたこと（彫刻を構成する予備の交換部品が複数用意してあること、木彫作品に対する対応策など）が非常に有益であったと感じている。また都度の移設の経緯や、作家とのやりとりの手紙、当時の新聞記事など、もちろんすべての彫刻について網羅されているわけではないが、限定的にでも当時の資料、書類が残っていることも貴重なことであろう。

彫刻修復の専門家と話していると、野外彫刻というものは設置されたのち、管理が行き届かず斑模様のまま置かれているものが多いという。そして悪戯がとても多いという。特に作品情報を記した付属のキャプションは、何かしら鋭利な道具によって故意に傷つけられていると推察されるものが多い。記された文字が判読できないものについては適宜改善する必要があるだろう。

当市で彫刻の管理に関わる立場になって感じることは、人の手に届く範囲にあるものは、事故や悪戯の可能性も高いものの、よく触れられた彫刻（特にブロンズ）は素材の状態もよく、美しい外観を保つ傾向がある。例えば公民館前に設置された山本正道の《樹と少女》における樹像などは、80cmという乗って遊ぶのにちょうどいい高さなのだろうか、ブロンズの自然の経年変化が美しく艶々としている。親しまれ触れられるものほど、状態がよい。市民の目にふれ、日常生活に溶け込んでいることから、有事の際には管理者に連絡も届きやすい。

設置環境による変化を特記するならば、植栽の影響は大きい。樹液の落下や生物の繁茂などは彫刻を大いに汚損している。鳥獣の糞害もブロンズの状態変化を引き起こすことから注意すべき汚損と捉える。発見次第ふき取るといった小まめなケアが、各素材において肝要である。修復の専門家たちも10～20年毎の大がかりな修復を実施するより、2年に一度のコーティングを推奨している。大規模修復を実施する段階になれば、オリジナルの作品には大きなダメージが蓄積されており、費用も比例して大きくなる。実施されれば美観が飛躍的に向上するが、その後10年20年放置されてしまっは同じ状態がむしろ悪化することにもなりかねない。ゆえに、小規模のメンテナンス予算を定期的に組み、洗浄やコーティングといった措置を継続することが、常に美しい外観を保ち、将来へ保存されることにつながるのである。それは市民の意識にも波及し、

彫刻が愛し親しまれることによって、設置当初に掲げた文化振興という目的に叶うものではなかろうか。

今回このように一区切りのまとめを行ったが、今後もこれらの情報が更新され、次の担当者や他自治体の方々へ野外彫刻の管理・運用にあたり、微力ではあるが一助となれば幸いである。今後も定期的に修復・メンテナンス情報の更新や素材の経年劣化について記録を蓄積し、発信・活用したいと考えている。

(註)

- 1 宇部市では1961年に「第1回宇部市野外彫刻展」を開催。招待作家14名、同展アドヴァイザーの向井良吉、柳原義達が賛助出品。以降1963年の「第1回全国彫刻コンクール応募展」という全国初の公募の野外彫刻展に続く。第4回までは著名作家の招待出品のみであった。(松尾豊『パブリックアートの展開と到達点』水曜社、2015年、p.70-71)
- 2 「彫刻のあるまちづくり」事業については基本構想を巻末の【資料1】に掲載しているので参考されたい。
- 3 定期清掃については巻末の【資料2】をご覧ください。
- 4 2009(平成21)年12月19、20日に修復専門家に委託実施された「野外彫刻状態調査報告書」を参考に著者がまとめた。
- 5 2003(平成15)年12月18日(木)「ブロンズ像披露式」挨拶を参考に著者が概要を記す。
- 6 「彫刻移設工事に係る検討会」2003(平成15)年2月4日(火)於鶯塚公民館議事録を参考に著者が概要を記す。
- 7 碧南市文化振興プランでは設置場所の要件として次のように挙げている。
○移設場所の検討は、碧南市文化振興プランに沿い、学校内または学校周辺で検討する。現在彫刻が設置してある学区内の学校内またはその周辺とする。
〈設置場所の要件〉
 - ・作品を鑑賞できる十分な空間が確保できること。
 - ・設置場所周辺が作品設置にふさわしい環境であること。
 - ・プランの趣旨に沿い、児童・生徒の教育的環境を整えるに相応しい場所であること。
 - ・市が管理できる場所にあること。
 - ・将来的に作品周辺への環境の変化が少ない場所であること。
- 8 1983(昭和58)年より13年間継続した野外彫刻設置事業だが、事業そのものへの批判も市民より多く寄せられていたようである(「平成15年2月4日彫刻移設工事に係る検討会議事録」より)。その中で1997(平成8)年度は一旦設置を休止、文化振興懇話会を組織し、事業継続の是非を問うこととなった。
- 9 シンポジウムの約20年後の2010(平成22)年度、碧南緑地公園は、碧南市の整備事業計画の対象とされた。サッカー場整備のために、野外彫刻の移設がやむを得ない状況となる。6体の彫刻の移設、修復、解体などの手段が検討され、像の状態調査が実施された。「碧南緑地のサッカー場整備に関わる野外彫刻(野外彫刻シンポジウム作品)の扱いについての打ち合わせ報告」(2010(平成21)年4月22日)より抜粋。
- 10 6体のシンポジウム作品の著作権・所有権については碧南市が有している(末尾【資料3】にシンポジウム要綱を掲載した)が、移設について作家2名との打ち合わせ(於碧南市役所土木課)を平成21年度末に行った。以下当時の彫刻移設記録簿より村上有彦氏の弁。
「市が碧南緑地を整備し、有効活用しようとの考え方は理解できるし、支持する。自身の作品は、作品当時から将来朽ちていくことを前提としたコンセプトから素材を木材とした。正直、よく20年もったというのが感想であって、作品の役割は終わったものと考えている。所有権・著作権が市に帰属することも理解しているし、処分を含め作品がどのような形に

取り扱われようが一切異論はない。一筆必要ならば提出もします。ただし、要望として撤去の際、作品名の銘板を保存したいので、頂きたい。」

市の対応として、「国際野外彫刻シンポジウム碧南」開催の経緯の記録したパネルを緑地に設置する旨をお伝えした。

石川博章氏との協議内容は次のとおり。

「最近の碧南緑地は寂しい雰囲気があり、活用方法は別として市が碧南緑地を有効利用していくために整備したいことは理解できる。緑地整備にあたっては、自身の作品は、永続して野外展示が可能な作品であり、別の場所で引き続き展示できるよう要望したい。」

市の対応として、「国際野外彫刻シンポジウム碧南」開催の経緯の記録したパネルを緑地に設置する旨をお伝えした。その後石川氏との協議は重ねられ、移設はせず緑地内で継続展示がなされることが決定された。

【資料1】

碧南の彫刻のあるまちづくり基本構想

1. 基本構想の目的

碧南市は、衣浦湾と矢作川、油ヶ渚にいだかれ、ひかりと碧と水に恵まれた温暖な気候と豊かな風土を保ちつつ、産業や文化の伝統を受けとめながら、時代の変遷とともに新しいすがたで活気を帯び、たくましいまちづくりが進められてきた。

今後、市民生活をより健康でうるおいのあるものへと向上させていくために、公園・緑地・広場・街角等のゆとりある空間に、碧南の風土に親しみ、かつ格調ある彫刻等の造形物を設置することにより、調和ある都市景観を開発し、もって文化都市としての香り高いまちづくりを推進する。

2. 基本テーマ

市民生活のなかでの見る・感じる・触れる・話す等の表現にかかわるものへの見識や視野を高め、伝統をふまえた清新な精神活動や、科学に対する技術革新へのたしかな眼を通して、まちづくりへの志向を推進する一環として彫刻等の造形物を設置する。

- (1) 彫刻等の造形物を配した緑の多い自然の中にふれあいの場をつくる。
- (2) 彫刻等の造形物を配した文化都市景観を備えた魅力あるまちをつくる。
- (3) 彫刻等の造形物を配した親しみあるまちの空間をつくる。

3. 構想の期間

昭和58(1983)年を初年度とし、平成4(1992)年を目標年度とする10ケ年を第1期計画とする。第1期終了後引き続き第2期の長期計画を構想する。

碧南の彫刻のあるまちづくり基本計画

1. 期間

第1期計画：昭和58年度から平成4年度までの10ケ年とする。

2. 設置作品

彫刻の役割と機能を果たす要件として質的に高い内容をもった作品を必要とするため、広く国内外の著名作家の作品を設置する。

3. 作品の選定

具体的な作家、作品の選定にあたっては、美術に関する有識者と市民および市の代表者による選考委員会を組織し、幅広い視野にもとづいた公正な立場で審議し決定する。

4. 設置主体と設置経費

設置主体は碧南市とし、具体的な運営は碧南市または碧南市が委託する民間団体が事業推進にあたる。また経費については碧南市予算と市民の寄付金をもって充てる。

5. 設置目標

毎年1体の設置を目標とする。

6. 設置場所

基本構想のテーマに合致した場所およびテーマの具体化に必要な環境の整備が可能な場所として、公園、緑地、広場、街角等に設置する。

(『碧南の彫刻のあるまちづくり』碧南市民憲章推進協議会、1994年より転載)

【資料2】

〈定期清掃〉

1990(平成2)年の記録では、シルバー人材センターに週1回の頻度で清掃委託している(石彫とシンポジウム作品を除く)。平成19(2007)年からは月2回の定期的な清掃業務が開始され、現在まで継続されている。

【定期清掃仕様】

碧南市内に設置された野外彫刻を定期的に清掃する業務委託している。

内容：各彫刻は乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。研磨剤、たわし等は使用しない。台座も同様に洗浄する。台座周辺の植栽内の草取りを行う。ブロンズ彫刻には乾拭き後水洗いし、水分を取り除く。ステンレス彫刻には希釈した弱アルカリ洗剤を使用し、表面の汚れを取り除く。石彫については周辺の雑草

を取り除く。全作品について、異常を発見した際は速やかに報告する。隔週月曜日（第5月曜日を除く）の24回とし、月曜日が雨天の場合は、その週の火曜日以降とする。毎月彫刻の清掃状況を甲に報告する。
※各作品詳細仕様については省略。

対象：
堀内正和《進む形》
佐藤忠良《ジーンズ・夏》
小田襄《風景の調和》
新妻実《眼の城'86》
山本正道《樹と少女》
環境造形Q《スパイラル》
加藤昭男《とのさまバッタ》
多田美波《晃》
鈴木実《HEKINAN 或る家族の肖像》
向井良吉《碧南》
下川昭宣《夏引》
黒川晃彦《ロンド》
柳原義達《道標・鳩》
国島征二《碧と風の輪》
加藤知彦《わらべの詩》

【資料3】

【国際野外彫刻シンポジウム碧南】

1989（平成元）年度7月16日（日）～8月27日（日）43日間
目的：全国的に彫刻のある風景や潤いのある街づくりを望む議論も高まるなかで、碧南市は昭和58年より野外彫刻を毎年1体ずつ設置してきた。平成元年度は、碧南市民憲章推進協議会が発足して15周年を迎えるため、これを記念して、日本に在住する留学生等による野外彫刻シンポジウムを開催する。なお、制作過程から一般公開をすることにより、野外彫刻に対する理解と興味を深め、よって地域文化の向上及び国際親善を図ることを目的とする。
主催：碧南市、碧南市民憲章推進協議会、碧南市教育委員会
主管：「国際野外彫刻シンポジウム・碧南」実行委員会

会場：碧南市臨海緑地公園内
テーマ：海と碧と彫刻
参加資格等：国内の大学で美術・教育学部から推薦された彫刻選考留学生5名
制作条件：作品の素材は自由（ただし、耐候性が有りがかつ危険性のない作品とする。）
制作期間・場所：制作期間は1989（平成元）年度7月16日（日）～8月27日（日）までの43日間で制作設置を完了すること。
宿泊・滞在：制作期間中、主催者が指定する施設に宿泊し、43日間に限り食事（現物支給）宿泊料金は主催者が負担する。
製作費等：800,000円／1人（材料費、消耗品及び交通費を含む。）
主催者が提供する制作用具：コンプレッサー 1基、削岩機2基、チェーンブロック及び三脚、クレーン車等
制作者が用意する用具：石彫用具一式、電気グラインダー、ダイヤモンドカッター、砥石等、その他必要なもの
所有権・著作権：作品の所有権及び著作権は主催者に帰属する。

参考文献
・『碧南の彫刻のあるまちづくり 第2集』碧南市民憲章推進協議会、1989年
・『みんなの約束明るい郷土 碧南市民憲章 15周年記念誌』碧南市、1989年
・国際野外彫刻シンポジウム碧南実行委員会編『国際野外彫刻シンポジウム碧南』碧南市、1989年
・竹田直樹『パブリックアート入門 自治体の彫刻設置を考える』公人の友社、1993年
・『碧南の彫刻のあるまちづくり』碧南市民憲章推進協議会、1994年
・佐藤義夫『野外彫刻マニュアル ―まちにアートを―』ぎょうせい、1994年
・『碧南の彫刻のあるまちづくり』碧南市・碧南市民憲章推進協議会、1996年
・『まちづくり総合支援事業ハンドブック』財団法人都市みらい推進機構、国土交通省都市・地域整備局監修、都市総合事業推進室、2002年
・『碧南市民憲章 制定30周年記念誌』碧南市民憲章推進協議会、2005年
・碧南市藤井達吉現代美術館企画展図録『碧南の空と大地の間展 ―まちを彩る彫刻たち―』2008年
・独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所編『文化財の保存環境』中央公論美術出版、2013年
・松尾豊『パブリックアートの展開と到達点 アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来』水曜社、2015年